2024 年　春号　No.59　（2024 年 4 月 13 日発行）

只見町ブナセンターだより

<ごあいさつ>　只見町は例年に比べ残雪が少ない春を迎えています。3 月の寒の戻りは厳しかったものの、2 m を超える雪の壁を見ることもなく、最大積雪深は 107 cm に留まりました。少雪による生態系や農業への影響が懸念されます。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝　開　催　案　内　＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【企画展】　「誕生から 10 年。只見ユネスコエコパークのここまでを振り返り、これからを考える」

只見ユネスコエコパークは平成 26 年 6 月 12 日に登録されてから今年で 10 年を迎えます。本企画展では、只見ユネスコエコパークのここまでを振り返り、10 年の取組の成果や歩みについて分かり易く紹介しています。

「エコパークってどこにあるの？」「自然を守るんでしょ？」「難しいんだよね」と思っている皆様！ ユネスコエコパークは自然を守るだけじゃありません。自然とともに私たち人間の社会経済的な発展が目標なのです。また、展示内には次の10年に向けての目標や課題を皆さんと考え、意見をいただくコーナーもあります。皆さんと作り上げるこれからのユネスコエコパーク、ぜひお気軽にお越しください。（ユネスコエコパークはよく分からないという方には、お勧めです）

■会期：2024.4/27(土)～9/1(日)　■会場：ただみ・ブナと川のミュージアム ２階ギャラリー

【自然観察会】

毎春恒例の観察会です。初日はカタクリやキクザキイチゲなどの春植物を中心に観察し、二日目は「癒しの森」のブナ林を歩きます。お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

	野生植物の花観察会	ブナ林の新緑観察会
開催日時	4/27(土) 13:00-16:00	4/28(日) 9:00-12:00
観察地	余名沢の森	癒しの森
集合場所	季の郷 湯ら里 駐車場 （只見町長浜上平 50 深沢温泉）	癒しの森 駐車場 （県道 352 号線沿い 松坂峠）
参加費	高校生以上 400 円,小中学生 300 円,町内在住の小中高校生 100 円	
定員・申込	両日ともに 30 名／電話 0241-72-8355 まで ※受付締切は 4/26（金）	
持ち物	長靴またはトレッキングシューズ、雨具、飲み物	

【自然観察会】 秋から初冬の野鳥観察会 2023 開催レポート

▲9/30 亀岡地区にて。
伊南川堤防から鳥を探す

▲10/28 小林地区にて。
田んぼのタヒバリを観察中

2023 年 9 月と 10 月の最終土曜日に、野鳥観察会を実施しました。9 月は 5 名、10 月は 6 名にご参加いただきました。秋は、渡りの途中で只見町に一時滞在する「旅鳥」や、越冬のため渡来する「冬鳥」の観察に適した季節です。こうした渡り期には思わぬ珍鳥が姿を見せることもあります。今回の観察会では町内初記録となる2種が確認されました。

一種目は、9 月 30 日に亀岡地区で確認されたホシムクドリです。主として平野部の農耕地に見られ、しばしばムクドリに交じって越冬する冬鳥です。秋に只見町のような山間地に現れたのは、特異な記録と言えるでしょう。もう一種は、10 月 28 日に小林地区で確認されたホオアカです。草原性の種で、河川や草地の開発により減少しており、福島県の最新のレッドリストでは絶滅危惧 II 類に選定される希少種でもあります。

今回は、秋の水田や河川周辺を中心とした身近な環境で、珍鳥も含む様々な鳥を観察でき、渡り期の鳥探しの面白さを実感いただけたかと思います。ご参加下さった皆さま、ありがとうございました。

No.	目名	種名	亀岡 9.30	小林 10.28
1	カモ	カルガモ		●
2		コガモ	●	●
3	ハト	キジバト	●	●
4	カツオドリ	カワウ	●	●
5	ペリカン	アオサギ	●	
6		ダイサギ	●	
7	チドリ	タシギ属の一種		●
8	タカ	ミサゴ	●	
9		トビ	●	●
10		ノスリ	●	
11		クマタカ	●	
12	ブッポウソウ	カワセミ	●	
13		ヤマセミ	●	
14	キツツキ	コゲラ	●	
15		アカゲラ	●	
16		アオゲラ		●
17	スズメ	モズ	●	●
18		カケス	●	●
19		ハシボソガラス	●	●
20		ハシブトガラス	●	●
21		コガラ	●	
22		ヒガラ	●	
23		シジュウカラ	●	●
24		ヒヨドリ	●	●
25		ウグイス	●	
26		ホシムクドリ	●	
27		カワガラス	●	●
28		ジョウビタキ		●
29		ノビタキ	●	
30		ニュウナイスズメ		●
31		スズメ	●	●
32		キセキレイ	●	●
33		ハクセキレイ	●	●
34		セグロセキレイ	●	●
35		タヒバリ		●
36		カワラヒワ		●
37		マヒワ		●
38		ベニマシコ		●
39		シメ		●
40		ホオジロ	●	●
41		ホオアカ		●
42		カシラダカ		●
計	9目	42種	30種	28種

表中の「●」は確認されたことを示す

◀ ホシムクドリ
福島県内で 3 例目と思われる。全国的には増加傾向にある

◀ ホオアカ
町内初記録。草丈の高い草地を好む

【自然観察会】 冬のブナ林観察会・雪どけのブナ林観察会

2～3 月、ふだん歩くことのない積雪期のブナ林で観察会を開催しました。2 月 18 日（土）の「冬のブナ林観察会」には 19 名、3 月 23 日（土）の「雪どけのブナ林観察会」には 13 名の参加がありました。

2 月の観察会は快晴の空の下、深沢集落の裏山に向かいました。薪炭林由来の若いブナ林では、樹皮を覆う地衣類やツキノワグマの爪痕も観察しました。急斜面を登って到着した目的地のブナ巨木群では、これらが切り残された理由や周辺の若いブナ林との違い等について学びました。

3 月の観察会は雪が降る中「余名沢観察の森」散策コースを辿りました。入口付近では低木の花芽や種子散布を終えた果実の痕跡、雪上昆虫も観察しました。スギ林では混交するホオノキやミズナラの種子散布と発芽の生態について、到着地では若いブナ林と成熟したブナ林の違いについて、理解を深めました。

両日ともにかんじきやスノーシューを履いて森を歩きました。雪国だからこその観察会として、来シーズンも企画予定です。

▲2/18 冬のブナ林観察会

▲3/23 雪どけのブナ林観察会

【ただみ・子ども藝術計画】

只見町ブナセンターは福島県立博物館の協力のもと、アーティストの岩田とも子さんを講師に、深沢地区余名沢のブナ林にて只見町の子どもたちを対象としたアートワークショップを開催しました。

紅葉がピークを迎えた第1回目（10/29（日））のワークショップでは、町内の 20 名が参加し、落葉の下を掘り、サンドイッチのように積み重なった地中の様子を観察したり、ブナ林の植物の葉っぱでゲームをしました。また、葉っぱの模様・色・形が「もしかしたら森にいるかもしれない生き物が残した『日記』だとしたら？」と想像し、その生き物の気持ちで日記を書きました。

▲余名沢のブナ林に展示された子どもたちの作品（日記）

第2回目（11/12（日））のワークショップでは 14 名が参加し、第1回目で参加者が創作した日記が作品として展示されているブナ林を訪れ、見学しました。また、ブナの落葉の上に寝転び、葉っぱの気持ちになる体験を行い、感じたことなどをブナ林の植物の葉っぱに日記として書きました。さらに、日記帳に模したブナ板にブナ林の落葉層を描き、ブナ林をアート空間として完成させました。

▲ブナ林の植物の葉に日記を書く

岩田さんは子どもたちに「自分たちの書いた日記をもしかしたら森の生き物たちが読んでくれるかもしれない」と優しく語りかけていました。参加者からは、「葉っぱに字を書くのが面白かった」「普段できない素敵な体験ができてよかった」などの声が聞かれました。

冬の間は作品展示をお休みしておりますが、雪解けとともに余名沢のブナ林に再び展示される予定です。子どもたちの感性あふれる素敵なブナの日記にご期待ください。

←各回のもようはブログにて詳しく紹介しております（ブログ QR コード）

【調査・研究】

令和 5 年度「自然首都・只見」学術調査研究成果発表会

1 月 28 日（日）、令和5年度「自然首都・只見」学術調査研究成果発表会が只見振興センターで開催され、町の助成を受けて調査研究を行った5グループの研究者がその成果を発表しました。町内外から 43 名（うち町民 32 名）の聴講者が集まり、発表後は、活発な質疑応答も行われました。各調査研究の概要をご紹介します。

東北大学理学部の石井 康人さんらは、只見町に生息するカタツムリ（ナメクジなど他の陸貝類を含む）の種類と、アイヅマイマイの進化的起源について調査されました。その結果、全国的にも希少なハナタテヤマナメクジとオオコウラナメクジを含む 10 種のカタツムリが只見町に生息することが示されました。また、アイヅマイマイは福島県東部ではなく、新潟県の集団に近縁であることがわかりました。さらに、詳細な遺伝子解析の結果から、右巻きが左巻きから出現した年代は現在の日本列島が形成される以前の約 3500 万年前と推定されました。

▲石井康人さん

東北大とアクアマリンふくしまの研究グループは、只見川と伊南川、その支流（田子倉湖より上流は除く）で環境 DNA 調査を行い、

只見町に生息する魚類の種と分布を調査しました。その結果、全 24 地点から 35 種の魚類の DNA が検出されました。最も多くの地点で検出されたのはイワナ属でした。加えて、ホトケドジョウ、キタドジョウ、アカザといった希少種も多く検出されました。その一方で、オオクチバスやブルーギルといった国外外来種は検出されませんでした。ただし、日本の他の地域から移入した国内外来種が 14 種も確認され、町内の希少な魚類を守るためには今後こうした国内外来種の侵入を防止する必要があります。

▲東北大・アクアマリンふくしまの研究グループ

新潟大学の森口喜成さんらは、町の天然記念物に指定されているアカミノアブラチャンの遺伝的特徴の解明と増殖方法の検討を目的として研究を行いました。その結果、挿し木処理は、労力の問題から増殖方法として現実的でなかった一方、取り木処理では、ほぼ全てでカルスの形成が見られ、6 月に処理された枝の全てで発根しました。また、唱平の4株とふるさと館田子倉の横庭の4株の合計8株のアカミノアブラチャンのクローンチェックを行った結果、8株とも異なる遺伝子を示しました。

▲盛口善成さん

新潟大学の大橋慎太郎さんは、只見町の一般家庭における薪材の調達方法および薪の年間消費量を調べ、持続的な森林資源活用の可能性と化石燃料代替による CO2 削減への貢献について評価しました。63 世帯での聞き取り調査の結果、薪材調達方法は、購入による調達が 53%、自己調達が 47%でした。すべての薪ストーブ利用者は、自身で薪割作業を行っていました。また、自己調達のうち伐採から行う人は 30%でした。薪材樹種は、約 67%の世帯が広葉樹、約 33%が針葉樹を主に使用していました。

▲大橋慎太郎さん

信州大学の鈴木海都さんらは、オンラインでの発表でした。研究の目的は、かつて利用されていた民具の種類による樹種の違いやその選択理由を明らかにすることによって、伝統的な民具を生態学的な観点から体系的に整理することです。只見町旧朝日公民館に収蔵されている文化財指定外のコウシキ、堅杵、横杵、カケヤ、ヒブセの合計 247 点について樹種を判別した結果、イタヤカエデ、ブナ、スギ、サワグルミ、コナラ属などが使われており、いずれも近辺の山林で入手できることや、民具の用途に適した樹種を選択していたことがわかりました。

町内外から 26 名の参加があり、活発な質疑応答も行われました。

【BR 特別セミナー「ワシやタカとともに生きる」】

3 月 20 日（水・祝）に只見公民館において、ユネスコエコパーク特別セミナーが開催されました。希少猛禽類との共生をテーマに、横山隆一氏（公益財団法人日本自然保護協会参与、只見 BR 支援委員会委員）、松井睦子氏（AKAYA プロジェクト地域協議会・希少猛禽類調査員）を講師にお話しいただきました。

横山氏は、日本人にとって猛禽類は神様や妖怪のモデルとして昔から身近なものであったこと、そんな猛禽類が世界中で個体数を減少させていることを紹介されました。特に自然の豊かさの程度や変化を知る指標の役割も持つイヌワシの生態について、イヌワシを保全するための狩りの出来る開けた草原の必要性、落ち着いて暮らしていける静かな環境の維持・創出が大切であることを解説されました。参加者からは、猛禽類を観察する上での注意点などの質問がありました。

▲特別セミナーの様子

松井氏は、イヌワシ、クマタカの保全の先進地であるみなかみユネスコエコパークの AKAYA プロジェクトについて、幅広い関係者の共同による生物多様性復元に向けた取り組みであることを紹介され、プロジェクト内では猛禽類に限らず、環境教育や植生など様々なワーキンググループによって、赤谷地区の持続的な地域づくりの取組を進められていることを解説いただきました。その中で猛禽類については平成 5 年から継続されているイヌワシの繁殖状況調査や、イヌワシの狩場創出のための伐採試験地の導入など先進的な取り組みが紹介されました。

会場には町内外から 30 人を超える参加者が来場し、関心の高さが伺えました。

========== お　知　ら　せ ==========

【「自然首都・只見」伝承産品に新しい商品が加わりました】

今回新たに認証されたのは「自然な歪みのカレー皿」です。

材料には、只見町のブナ材を使用しています。只見町の伝統的な「春木山」を模して間伐され、雪上搬出されたブナが利用されています。木皿用のブナ材は、化石燃料を使った乾燥は行わず、生木のうちに削り出し、その後は自然乾燥で歪ませます。「一人ひとり顔が違うように、お皿ももっと違っていい」というコンセプトです。気に入った 1 枚を見つけ、やすりがけし、塗装を施します。

▲自然な歪みのカレー皿

雪まつりでは、自分だけのカレー皿を作るワークショップも開催されました。今後も町内外のワークショップでお目見えするそうです。

▲2/10～11 の雪まつりで行われたワークショップ

【新たな木工クラフト体験が好評です】

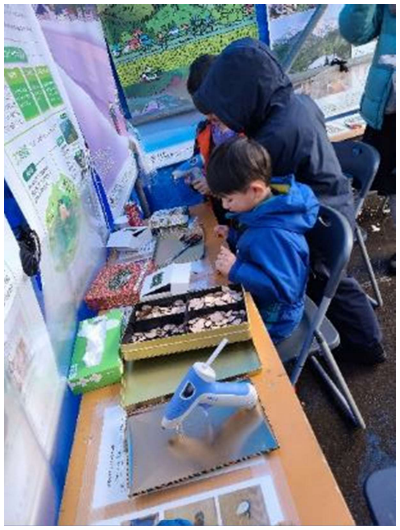
ただみ・ブナと川のミュージアムでは、これまでの木工体験に加え、新たに「ただみのブナ林のかけらクラフトキット」の販売を開始しました。製作できるのは、「ストラップ」「バレッタ」「ブローチ」の 3 種類です（各 800 円<税込>）。雪まつりの会場では只見ユネスコエコパークのブースにて多くの方に製作いただきました。

▲バレッタ・ブローチ

▲ストラップ

材料となるのは、只見町内の若いブナ林を育成するために、春木山で間伐・搬出されたブナ材です。年間を通して、ただみ・ブナと川のミュージアムにて製作できますので、ぜひご利用ください。

▲春木山で間伐されたブナ材



▲雪まつり会場での只見ユネスコエコパークブースの様子

【ブナセンターホームページがリニューアル】

2024 年 3 月末よりブナセンターホームページがリニューアルし、以前よりシンプルで見やすくなりました。スマートフォンにも対応しており、操作性・視認性いずれも向上しています。最新のイベント情報等もこちらに掲載して参りますので、ブナセンターの最新情報を得るツールとしてご活用ください。

ブナセンター
ホームページ
QR コード

▼ ▼

只見町ブナセンター　令和６年度行事一覧（予定）

企画展

会期	タイトル	会場
2024/4/27（土）～9/1（月）	「誕生から 10 年。只見ユネスコエコパークのここまでを振り返り、これからを考える」	ただみ・ブナと川のミュージアム 2 階 ギャラリー
2024/9/7（土）～12/15（日）	「雪国のブナを極める II」	

観察会

開催日	タイトル（観察地）	集合場所
2024/4/27（土）	野生植物の花観察会（余名沢の森）	「季の郷 湯ら里」駐車場
2024/4/28（日）	ブナ林の新緑観察会（癒しの森）	癒しの森 駐車場

＜編集後記＞ この秋から冬にかけてブナセンターでは新たな取り組みを行いました。一つは、ただみ・子ども藝術計画、もう一つはブナ材を使った木工クラフトキットの販売です。いずれも只見のブナ林をはじめとする自然をより身近に感じてほしいという想いからです。また、今年度の学術発表会では自然に関するものから文化的なものまで只見の特徴を活かした調査研究が幅広く実施され、只見町の研究フィールドとしてのポテンシャルの高さや面白さを改めて実感しました。どの取り組みも派手さはないですが、地道に続けていくことで、いつか大きな花を咲かせることと信じています。ユネスコエコパークも今年で登録10周年になり、次の企画展では只見ユネスコエコパークの10年の歩みを紹介します。人と自然との共生を実現する中での地域活性化はまだまだ道半ばです。今後とも只見町と只見町ブナセンターの応援をよろしくお願い申し上げます。

発行 **只見町ブナセンター**　〒968-0421　福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地

只見町ブナセンター

電話　0241(72)8355　　**ホームページ**　http://www.tadami-buna.jp
FAX　0241(72)8356　　**メール**　info-buna@amail.plala.or.jp
Facebook　https://www.facebook.com/tadami.buna
付属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」・「ふるさと館田子倉」
開館時間：9:00～17:00（最終受付 16:00）
休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）、年末年始（12/29～1/3）
入館料：高校生以上 310 円（20 人以上は団体割引）　小・中学生 210 円
只見町在住の小・中・高校生 無料